

令和6年度 学校評価自己評価表:計画表 廿日市市立佐伯中学校

- 校訓 「自律」
- 学校教育目標 「夢や目標に挑戦し、自己実現を図る生徒の育成」
- 学校経営目標 知・徳・体の基礎・基本を土台に、夢や目標に挑戦し、自己実現を図る生徒を育成することで、地域から信頼される学校づくりを推進する。
- 学校経営方針 (1)「夢や目標」(生徒が、夢や目標を思い描く) (2)「挑戦」(生徒が、困難を乗り越え挑戦する心を鍛える) (3)「自己実現」(生徒が、自己実現に向けて計画を立て自立する)
- 経営目標・評価項目・評価・達成状況 (◎は重点目標)

| 評価計画 | | | | | | 自己評価 | | | | | 学校関係者評価 | 改善方法 | |
|-------------------|--|---|--|--|--|--|--|-------|--|--|---|---|---|
| 中期経営目標 | 短期経営目標 | 目標達成の方策 | 評価項目・指標 | 目標値 | 担当 | 中間8月 | 進捗状況分析・今後の取組(8月) | 最終2月 | 達成度 | 評価5段階 | 結果と課題の分析 | コメント | 改善方法 |
| 【知】確かな学力定着の推進 | ◎基礎・基本の確実な定着 | ○【令和5年度研究主題】「主体的に学び続ける生徒の育成～基礎学力の定着と振り返りの充実を通して～」に基づき、次のことについて取り組む。 ・授業の中における学び合いを促進させる指導法の工夫改善【ICT機器(chromebook)の活用】 ・家庭学習の充実【小中連携による共通目標】 | ○定期試験における基礎学力【知識】の正答率60%以上の生徒の割合【5教科対象】 | A…70%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満 | 教務部 60.8% | B | 全体の平均としては60%を超えたが、2年生の5教科の平均が40.2%と、課題が少ない。授業中は落ちていた様子で学習しているが、試験の結果や成績に対する意識が低い傾向にある。また、それを踏まえながら試験への集中や課題への提出等、試験への取組などを見ても、3学年の内で最も状況がよい。さらに、家庭学習を充実させることで、学力向上を図りたい。 | 55.6% | 79% | C | 各学年の内訳は、1年生59.6%、2年生35.5%、3年生67.3%で、2年生の課題がなかなか改善されない。2年生は、周りがほとんど同じような点数、成績を取っているため、危機感がない。点数に対する意識が低い。家庭学習の充実や、授業への集中や課題への提出等、試験への取組などを見ても、3学年の内で最も状況がよい。さらに、家庭学習を充実させることで、学力向上を図りたい。 | ・先生方には熱心に指導をしていただきたいと感じる。来年度については、授業が5時間で時間のかかる学習を行なうクラスを設け、学生が各自で時間を使い、理解に時間がかかるところ、個別の支援が必要となる場合の学習を支援する機会とする。 | 課題の大きい来年度の3年生については、授業が5時間で時間のかかる学習を行なうクラスを設け、学生が各自で時間を使い、理解に時間がかかるところ、個別の支援が必要となる場合の学習を支援する機会とする。 |
| | | ○学校評価に係る生徒アンケート【7月・12月】の項目「グループ活動での関わりを大切にしている」と答える生徒の割合 | A…80%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満 | 教務部 92.5% | A | 「グループ活動で関わりを大切にしているか」という質問では肯定的回答が非常に高いが、「グループでの活動によって学びが深まっているか」という質問については、ほとんどの教科が80%を超える中、2年生の国・社・教が40%と非常に低い値となっている。グループを活用することで、学びに向かう姿勢が高まるような活動例等を研修していくたい。 | 93.6% | 117% | A | 前期よりさらに数値が上がり、授業の中でペア・グループの活動は定着しているようだ。教員側からも、①理解が十分でない生徒のサポートをする生徒が一定数いる、②理解の前で自分の考えを表明することで、考え方を明確になる、③課題を解決するために効果的である、といった評価が上がっている。 | ・佐伯高校では今年度国公立大学への進学者は現在のところ5名で、佐伯中出身者もいる。高校では総合的な学習時間の評価が上がった。SAEKI QUESTにおいて、自身で決めたテーマを3年間かけて探求していくことを力をかけてきた。佐伯中出身の生徒は佐伯中学校生活がとても楽しかったと言ふ生徒が多く、その原因で高校生活で新しい人間関係をつくり、頑張ることができている。 | 例年達成度が高く、教員側も教育効果を感じている項目であるが、今後はグループ学習の質を高めるような取組を校内で行ないたい。 | |
| | 家庭学習の充実【さいきっ子カード】[毎日トレノート等の活用] | ○学校評価に係る生徒アンケート【7月・12月】の項目「授業以外の時間を使って自分から進んで学習した時間」1時間以上と答える生徒の割合 | A…70%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満 | 教務部 54.9% | C | 学年別では、1年生65.1%、2年生38.1%、3年生60.4%となっており、2年生の家庭学習時間に最も課題がある。来年は受験もあるので、今のうちから学習をする習慣をつけておかれなければいけない。3学期初めに、1・2年生はTSPを行うので、そこに向けて学年での授業等の学習計画を立てさせて、家庭学習につなげていきたい。 | 47.9% | 68% | C | 各学年の内訳は1年生50.0%（▲15.1%）、2年生32.7%（▲5.3%）、3年生61.2%（△0.8%）である。2年生の底辺は変わらぬ課題であるが、「1年生の減算幅も課題であり、入学当初からやる気がある」という意見が多かった。進路選択の主な経路についての話を聞いて、「今から大手を読んだところ、少し意匠の変化が見られた。今後2年生にも同様に進路の話を教えてもらおう。 | ・2年生は、これまで年に1回しかTSPを実施していないかったが、来年度は2回かかる予定だ。そこで、自分を主導する意識を育む、3年生同様の発展的な学習を行う。 | ・佐伯高校では今まで年2回しかTSPを実施していないかったが、来年度は2回かかる予定だ。そこで、自分を主導する意識を育む、3年生同様の発展的な学習を行う。 | |
| 【成】徳豊かな心の育 | 自他のよさを認め合う「自己肯定感」「自己有用感」の育成【市教委の重点施策に基づく重点目標】《小中連携による共通目標》 | ○生徒指導の充実を図るために、次のことについて取り組む。 ・年2回のアセスの実施と分析、学級経営への反映 ・学校行事や生徒会活動等を中心に、「達成感・成就感を味わうことができる活動」の場の設定と充実 ・生徒会活動の充実(みそあじの進化・発展) ・感謝と貢献する気持ちの醸成と実行 | ○学校評価に係る生徒アンケート【7月・12月実施】項目「自分には、よいところがある」の肯定的評価の割合 | A…80%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満 | 生徒指導部 75.9% | B | 生徒アンケート「自分には良いところがある」で肯定的評価をした生徒が75.9%であった。昨年度の同時期は84.7%で、8.8%下がっている。日々の授業や行事等で、生徒の頑張りをタイムリーに評価するなど、生徒の頑張りを見つけて声をかけていく。また、様々な行事評議会や振り返りを実行するうつ、「自分が頑張ったこと」等を考えさせる。 | 84.3% | 105% | A | 生徒アンケート「自分には良いところがある」で肯定的評価をした生徒が75.9%であった。昨年度の同時期は84.7%で、8.8%下がっている。日々の授業や行事等で、生徒の頑張りをタイムリーに評価するなど、生徒の頑張りを見つけて声をかけていく。また、様々な行事評議会や振り返りを実行するうつ、「自分が頑張ったこと」等を考えさせる。 | ・生徒アンケート「自分には良いところがある」で肯定的評価をした生徒が75.9%であった。8月より8.4%下がった。昨年度の同時期は84.3%で、8月より8.0%下がっている。昨年度の同時期は84.3%で、8月より5.4%下がっている。行事や学級で、役割を持たせる活動や、ランチアゲイング活動を仕組むことで生徒の自己有用感を高めていく。 | アンケート結果の数字だけではなく、経年比較したデータをもって、学年ごとの変容を把握し、取組を行っていく。 |
| | ○学校評価に係る生徒アンケート【7月・12月実施】項目「自分のやったことで人から喜んでもらったことがある」の肯定的評価の割合 | A…80%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満 | 生徒指導部 90.2% | A | 生徒アンケート「自分がやったことで人から喜んでもらったことがある」で肯定的評価をした生徒が90.2%であった。昨年度の同時期は93.3%で、3.1%下がっている。1学期は体育祭で学級練習を積極的に取り入れたり、様々な場面でボランティア活動を行なった。また、学年や仲間の良いところを探して、お互いを認め合う活動をしている。2学期は文化祭で学年を超えた交流を計画する。 | 90.0% | 112% | A | 生徒アンケート「自分がやったことで人から喜んでもらったことがある」で肯定的評価をした生徒が90.2%であった。昨年度の同時期は93.3%で、3.1%下がっている。1学期は体育祭で学級練習を積極的に取り入れたり、様々な場面でボランティア活動を行なった。また、学年や仲間の良いところを探して、お互いを認め合う活動をしている。2学期は文化祭で学年を超えた交流を計画する。 | ・生徒アンケート「自分がやったことで人から喜んでもらったことがある」で肯定的評価をした生徒が90.2%であった。昨年度の同時期は93.3%で、3.1%下がっている。1学期は体育祭で学級練習を積極的に取り入れたり、様々な場面でボランティア活動を行なった。また、学年や仲間の良いところを探して、お互いを認め合う活動をしている。2学期は文化祭で学年を超えた交流を計画する。 | ・経年変化を見ていいくことが大事である。今2年生、3年生が昨年どうだったかを丁寧に見ていき、分析してみてはどうか。 ・経年変化を見ていいくことが大事である。今2年生、3年生が昨年どうだったかを丁寧に見ていき、分析してみてはどうか。 | | |
| 【体】の健やかなかな身体 | 不登校生徒の減少【市教委の重点施策に基づく重点目標】 | ○学校評価に係る生徒アンケート【7月・12月実施】項目「みそあじを実行している」の肯定的評価の割合 | A…80%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満 | 生徒指導部 89.5% | A | 「みそあじ」に関するアンケートで、肯定的評価をした生徒は89.5%であった。「みだしなみ」85%、「そうじ」90%、「あいさつ」90%、「時間」93%と、生徒会活動の「みそあじ」を実行している生徒が多い。引き継ぎ生徒会活動(みそあじエンジニア)等で「みそあじ」を意識させるような活動をしていく。 | 90% | 112% | A | 「みそあじ」を意識して生活している生徒は90%で、肯定的評価をした生徒は89.5%であった。「みだしなみ」85%、「そうじ」90%、「あいさつ」90%、「時間」93%と、生徒会活動の「みそあじ」を実行している生徒が多い。引き継ぎ生徒会活動(みそあじエンジニア)等で「みそあじ」を意識させるような活動をしていく。 | ・「みそあじ」を意識して生活している生徒は90%で、肯定的評価をした生徒は89.5%であった。「みだしなみ」85%、「そうじ」90%、「あいさつ」90%、「時間」93%と、生徒会活動の「みそあじ」を実行している生徒が多い。多くの生徒が「みそあじ」を意識しているからこそ、できない生徒が目立っている状況にある。引き継ぎ、できていることを評価していく。 | ・私が子については、「学校に行きたくなかった」とは一度も言わなかった。学校が本校の人の居場所となるのだとと思う。親としては本当に有難いことだと思う。 | ・生徒指導規程が定められている理由を、生徒に定期的に提示し、安心安全な学校づくりを自主的に実行霁囲気を作れる。 |
| | ○不登校生徒数を20%減少させる。 【令和4年度17人⇒10人以下に】 | A…10人以下 B…11人以下 C…12人以下 D…13人以上 | 生徒指導部 11人 | B | 8月末での不登校生徒は、1年生2人、2年生5人、3年生5人である。そのうち、4月から全生の不登校は2人である。不登校の要因は様々で対応が非常に困難であるが、教員やSSNが家庭訪問、保護者と面談、保護者がSCと面談、子どもが教室に通室、子育て相談室と連携、など個に応じた対応をしている。今後も継続して行う。 | 15人 | 66% | C | 1月末での不登校生徒は、1年生2人、2年生7人、3年生5人である。そのうち、4月から全生の不登校は2人である。2年生の不登校生徒1名は、子どもが相談室と連携を図り、10月から通うことができようになった。親と家庭の関係を切り直せないように、関係機関とも連携を図ながら、個に応じた対応をしていく。 | ・個人に寄り添う支援、必要な方に応じた関係機関との連携を教職員が共通認識をもって行う。 | ・不登校生徒については他の学校と比較して多いのかどうか。 ・不登校の問題は家庭環境の影響がある生徒もいるので関係機関との連携をしっかりとつけていくことが大切である。 | ・生徒が主体的に活動する場を行なう、生徒会活動、学級活動にて設定し、自己有用感・自己肯定感を育む。 | |
| 学保校護づ者くり地域から信頼される | 生徒の学校満足度の向上 | ○自己肯定感・自己有用感の高揚 ○提出物の提出や配布物の受け渡しの徹底 | ○学校評価に係る生徒アンケート項目【7月・2月実施】「佐伯中学校の学校生活に満足している」に対する肯定的回答の割合 | A…80%以上 B…70%以上 C…60%以上 D…60%未満 | 教頭 88.0% | A | 肯定的評価の理由としては、人間関係が良好で、楽しいと回答している生徒が一番多かった。肯定的評価の理由としてはも人間関係をあげている人がいる。また、「なんどなく」とはっきりとした理由を挙げていない生徒もある。人間関係を深め、学校生活が充実するよう、行事等の取組を行なう。 | 90.0% | 113% | A | 肯定的評価の理由としては、8月同様、人間関係が良好で、楽しいと回答している生徒が一番多かった。肯定的評価的理由としては、「はっきりしないものが多いが、中でも人間関係に関することが挙げられていた。 | ・不登校生徒については他の学校と比較して多いのかどうか。 ・不登校の問題は家庭環境の影響がある生徒もいるので関係機関との連携をしっかりとつけていくことが大切である。 | ・生徒が主体的に活動する場を行なう、生徒会活動、学級活動にて設定し、自己有用感・自己肯定感を育む。 |
| | 保護者の学校満足度の向上 | ○「みそあじ」の徹底 ○学校行事や生徒会活動の活性化 ○教室の環境整備 | ○学校評価に係る保護者アンケート項目【7月・2月実施】「佐伯中学校の教育活動に満足している」に対する肯定的回答の割合 | A…80%以上 B…70%以上 C…60%以上 D…60%未満 | 教頭 93.1% | A | 肯定的評価の理由として、教職員の熱心で丁寧な指導ややる気を起させるテスト対策や受験対策が挙げられていた。肯定的評価の理由は「また、生徒の要望として、児童で分からぬ生徒へのきめ細かいフォローや行事の日曜日開催を希望することなどが挙げられていた。 | 92.2% | 115% | A | 肯定的評価の理由は、我が子が楽しく充実した学校生活を送っていることが挙げられた。肯定的評価の理由は、校則や学年についていること、生徒に寄り添った指導ができていたことが挙げられていた。 | ・保護者の学校満足度の向上については、家庭環境の影響がある生徒もいるので関係機関との連携をしっかりとつけていくことが大切である。 | ・日頃から迅速で丁寧な保護者対応を引き続いている。 |
| | 時間外勤務の削減 【市教委の重点施策に基づく重点目標】 | ○迅速で丁寧な保護者連携 ○働き方改革(時間外勤務の削減) | ○時間外勤務時間が月平均45時間を超える教職員を0人とする。 | A…0人 B…1~7人 C…8~11人 D…12人以上 | 教頭 7人 | B | 指標に対する月別人数は4月11人、5月9人、6月9人、7月9人、8月10人であった。主任層の仕事量が多く、分散が必要である。8月に業務改善の研修を行い、業務の見直し等を行なっている。様々な改善策をまずは試行期間を設けてやってみる。 | 7人 | 71% | B | 指標に対する月別人数は9月7人、10月11人、11月7人、12月5人、1月4人であった。試験作成、採点、成績処理等について事務処理の設定などにより一定の効果はあった。行事についての業務の見直しはでていない。 | ・業務改善については、教職員から出されたアイディアを試行しながら、実現させていく。また、主任層の業務と行事についての業務の見直しを年度末、年度当初に行なう。 | |